

# 第3回全国銃剣道指導者研修会

## 《国庫補助事業》



滝沢講師による「打ち払い」の指導

第3回全国銃剣道指導者研修会（主催＝日本武道館・全日本銃剣道連盟、後援＝スポーツ庁）は、11月11日～13日の3日間、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）にて、全国から79名（教員5名、女子13名、地域指導者61名）が参加し、実施された。

本研修会は国庫補助事業として、全国で銃剣道を指導する中学、高等学校の教員及び社会体育指導者を対象に、銃剣道指導者の養成と資質向上に寄与することを目的に開催された。

### ■1日目（11日）

開講式の主催者挨拶で、酒井健全日本銃剣道連盟会長が「この研修会では学校指導者、女性指導者、地域における社会体育指導者とそれぞれの立場で指導法を学んでください。今年、全日本銃剣道連盟は60周年を迎えましたが、全国的にも中学校での授業実施校はまだ1校のみです。また、女性の愛好者も非常に少ないのが現状です。この機会に正しい指導法を身につけるとともに、楽しい銃剣道を地元の方や特に女性に広めていただきたいと思います。指導現場の課題を共有し、良いところを取り入れ、よりよく改善するためにどうするかを吸収し充実した研修会にしていきたいと思います」と述べた。

続いて、三藤芳生日本武道館理事・事務局長が挨拶

に立ち「現在の学習指導要領には柔道、剣道、相撲しか明記されていないが次の改訂では銃剣道を含めた9つの種目がすべて明記される予定です。来年5月には日本武道協会が設立40周年を迎えます。中学校武道必修化の充実のため、2万部の指導書、DVDを各3巻作成し、全国の中学校、都道府県・市区町村教育委員会に無償で配布する予定です。中学校武道必修化もこれから第二期を迎え、皆さんには先頭に立って銃剣道の素晴らしさを伝えていただくとともに、この研修会では指導内容や伝達方法を学んでいただきたいと思います。この後は、小笠原清忠特別講師による実技を交えた礼法の講義が予定されていますのでしっかり学んでいただき、全国に伝えていただきたいと思います」と述べた。

開講式後は講義「武道の礼法」が行われた。小笠原清忠特別講師から「起つ、座る、歩く、いかなる動作でも、意識的な呼吸を働かせることが基本となります。呼吸は息を吸うことと吐くことで、息を止めるということは含みません。小笠原流は吐く息で一步、吸う息で一步というのが呼吸と足運びを連動させた歩行の基本となります。日常の呼吸は無意識ですが、何らかの動作を行う場合には意識的に呼吸を働かせるようにします。呼吸法をもっとも自覚できるのはお辞儀です。三息の礼という言葉があり、三息とは吸う、吐く、吸うの呼吸動

作です。体を起こす時に息を吸うというのは、あまり意識しなくてもできますが、上体を曲げながら息を吸うというのは、意識をしなければ難しいものです」と礼法の解説を行った。DVD鑑賞の後、参加者は実際に小笠原流礼法を体験した。



続いて、滝沢元氣講師が「学校授業における銃剣道指導法」の講義を行った。基本的な用具、防具の取扱や構えの手の位置の確認をした。また学校授業では安全が優先されるので相手との距離を道場指導より広く設定する必要があると説明した。その後、参加者全員で新聞紙とボールを目標物として突かせ、実際に突く感触を確かめ、銃剣道授業の導入部分（動機づけ）に触れ、初日を終了した。

## ■2日目（12日）

この日はA班（中学校武道必修化対応・高校部活動指導 20名）とB班（社会体育指導者 59名）に分かれ実技研修が行われた。

### A班 中学校武道必修化対応・高校部活動指導者

滝沢講師・石川慎也講師が中心となり、中学校の武道授業を想定した内容の講義が展開された。

午前は経験者が初心者への参加者への木銃の説明や特徴・特性を中学生にどう伝えるか、外部指導者の立場になり表現方法を学ぶとともに初心者の参加者と学校授業における基本動作の習得に努めた。午後は銃剣道の基本となる技である「直突」、「反対交差の突き」、「打ち払い（右・左）」、「打ち払い突き（右・左）」をグループで姿勢や足さばきの確認をした後、発表会を行った。滝沢講師から「授業では、ある程度の合格ラインは設定するが、ノルマの設定はせず評価することを心がけてほしい」と授業での銃剣道の評価方法の工夫について解説がなされた。

### B班 社会体育指導者

午前中、佐藤亨講師が銃剣道の形（1～8本目）、木銃対刀の形（1～6本目）の実技を行い、形の目的、効果、技法などの解説を行った。

午後からは御山昇講師が用具を装着した実技を

行い、正しい基本技の解説を行った。

## ■3日目（13日）

鈴木健講師から「全日本銃剣道連盟における必修化への対応と取り組みについて」と題し、必修化の現状を次のように報告した。「昨年、平塚市内の中学校で銃剣道を授業で取り扱ってもらうことができたが、複数種目の一つであるのが現状です。連盟としてもまず銃剣道を周知していくこと、体育科教員への指導法のサポートの充実に注力していきたいと考えています。今後は銃剣道を積極的にアピールしていくことが重要だと思います。」

引き続き、<sup>たんげたかし</sup>丹下隆之助講師より中学校必修化班の情報交換会における検討内容発表が行われた。「国体開催県では部活動を立ち上げるなど努力しているが終了後は指導者の異動等により継続的に活動できていない状況にある。今後は継続できる環境づくりやより多くの女子の参画を促し、銃剣道を盛り上げていきたいとの意見があった」と報告した。

閉講式では修了証授与の後、講師講評、主催者挨拶を行い、3日間の全過程を終了した。

### 【参加者の声】

#### ＜大阪府・男性教員＞

指導者として研修会に参加しましたが初心者指導を行う際の注意点や基本動作の修正に必要な言葉掛けなど新しい発見ができました。分科会では全国の指導者の方々の実践報告や悩み、さらには教育委員会や行政の立場から意見を聞くことができました。情報を共有できたことで自分がやらなければならないことが見えてきた気がします。個人では限界があるので、行政や地域の自衛官の協力が必要だと改めて実感しました。

#### ＜福岡県・女性自衛官＞

今回初めて参加しました。たくさんの先生方から、礼法や形、基本技術といったことを初心に帰って学ぶことができ、大変貴重な機会となりました。特に形については、うろ覚えの箇所がたくさんあり、教則では理解しづらいところも実際に目で見て、直接指導いただけたことで自分のスタイルを見つめなおす事ができました。今回は女性が13名参加しており、朝稽古では、第三稽古（試合稽古）を通じて、一般の方や全国大会で剣を交えた方々と交流を深めることができました。今後は駐屯地各部隊の指導者にも、この研修会の素晴らしさを伝え、一緒に参加できる仲間を増やしたいと思います。このあと、若手隊員への銃剣道指導が控えていますので今回学んだことを実践し、少しでも銃剣道の普及につなげることができればと思います。